

科目名	芸術の世界			ナンバリング	GEN122	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	久呉高之	担当教員	久呉高之、野村光義				

授業の概要	西洋の古代から中世、近代から現代に至る芸術論や美学の概観をふまえ、芸術という営みや文化が人間にとっていかなる意味をもつか考察することを目的とする。今年度は、最後の4回、音楽芸術の一端としての「モダンジャズ」を取り上げ、その芸術性を理解し感受するために必要な講義やビデオ視聴をおこなう。						
到達目標	1. 古代ギリシャ哲学から中世キリスト教哲学にいたる芸術論の概観を得る。 2. 近代哲学における「美学」の展開をふまえて、現代の芸術論の概観を得る。 3. 「美」とは何かの考察を含め、人間にとって芸術とは何かを考える。 4. モダンジャズの特徴と芸術性とを理解し、実際の演奏で感受する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	時として哲学的概念を用い、哲学的考察に立ち入るので、哲学事典等で普段からそれらに馴染んでおくことが望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
		4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 古代ギリシャ哲学から中世キリスト教哲学に至る芸術論の各々について、そのポイントを指摘できる。 2. 「美学」の創始者バウムガルテンとカントの「美的判断」とについて、それぞれのポイントを指摘できる。 3. 近現代における芸術論の各々について、そのポイントを指摘できる。 4. 「美」や「芸術」に関する諸問題のポイントを指摘できる。 5. モダンジャズの特徴を説明し、その芸術性を感受することができる。	1. 古代ギリシャ哲学から中世キリスト教哲学に至る芸術論の流れ、連関を説明できる。 2. 近世哲学における美学の展開について、その大筋、連関を説明できる。 3. 現代の芸術論における諸問題について、その概要を説明できる。 4. 「美」や「芸術」に関する諸問題について、歴史をふまえつつ説明できる。 5. モダンジャズの巨人たちの各々の芸術性について説明し、相互の違いを感受することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		60%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○	○	○	40%

課題、評価のフィードバック	・授業中のプリントへの書き込みに無理解や誤解が見いだされた場合は、次の授業でそれを指摘する。 ・60点未満になりそうな受講者には、希望すればレポート提出の機会を与える。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	この講義の目的や意義、概要、進め方、注意点について説明する。	
	第2回	芸術と美	芸術と美との関係について、古今の考え方の違いを説明する。	
	第3回	プラトンの芸術論 1	『饗宴』における「美のアイデア」について、「美の階段」をキーワードとして解説する。	
	第4回	プラトンの芸術論 2	『国家』における「詩人追放論」について、「真理とその影」をキーワードとして解説する。	
	第5回	アリストテレスの芸術論 1	『詩学』における「芸術作品」について、「ミーメシス」（再現ないし模倣）をキーワードとして解説する。	
	第6回	アリストテレスの芸術論 2	『詩学』における悲劇・叙事詩について、「カタルシス」（浄化）をキーワードとして解説する。	
	第7回	アウグスティヌスの芸術論	『告白』における「歌」について、「内的形相」をキーワードとして解説する。	
	第8回	トマス・アキナスの芸術論	『神学大全』における「神と人間」について、「創造と制作」をキーワードとして解説する。	
	第9回	バウムガルテンの美学	「美学」の創始者 A. G. バウムガルテンの所説について、「感性的認識」をキーワードとして解説する。	
	第10回	カントの「美的判断」	I. カントの「美的判断力」の所説について、「美と崇高の感情」をキーワードとして解説する。	
	第11回	ヘーゲル以降の美学と芸術論	ヘーゲル以降、近現代の美学と芸術論について、芸術論の歴史や美学史をふまえ、流れや問題点に焦点を合わせて解説する。	
	第12回	モダンジャズの創始者チャーリー・パーカー	パーカーの演奏の視聴をふまえ、モダンジャズの特徴と醍醐味について解説する。	
	第13回	孤高の巨人セロニアス・モンク	モダンジャズに芸術的な深みを与えたモンクの演奏の視聴をふまえ、その芸術性について解説する。	
	第14回	ジャズの帝王マイルス・デイヴィス	モダンジャズに美的な洗練や繊細さをもたらしたマイルスの演奏の視聴をふまえ、その芸術性について解説する。	
	第15回	サックスの巨人ジョン・コルトレーン	モンクとマイルスの多大な影響のもとにジャズの芸術性を宗教性にまで推し進めたコルトレーンの演奏について解説する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		第1～11回は主として配付プリントへの書き込みによって、第12～15回は主としてビデオ視聴によって進める。		
授業外学習の指示		次回授業のテーマについて参考書やインターネットであらかじめ調べ、「授業内容」にもとづき、予備知識を得ておくこと。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	配付プリントをテキストとする。
参考書	小田部胤久『西洋美学史』（東京大学出版会）本体価格2,800円 ISBN978-4-13-012058-6 『岩波 哲学・思想事典』（岩波書店）本体価格14,000円 ISBN4-00-080089-2
参考URLなど	
その他	